

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501415		
法人名	有限会社 ケアワークス		
事業所名	グループホーム はまなすの家1F		
所在地	札幌市豊平区美園1条1丁目5番17号		
自己評価作成日	令和2年11月6日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170501415-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年1月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年9月より共用型デイサービスを行っています。平成14年開設し、現在の場所に移転し18年が経過しました。
町内会に加入しています。今年はコロナ対策のため、施設内対応となっています。(公園の社会資源の活用等)
施設内はスタッフの4割が看護師です。地域の医療連携を密にし、入居者様、家族、職員の安心・安全につなげています。
毎日申し送りを聞き、プランに基づいたケアを実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームはまなすの家」は静かな住宅地にあり商業施設や公共交通機関駅等にほど近い距離に立地している。母体法人は地域高齢福祉の支え手として多くの医療介護福祉事業所を展開しており、当施設は地域密着型サービス導入前に開設し20年目を迎えている。看護師資格を有するスタッフが昨年末より更に1名増え計7名となり、医療機関と連携しつつ利用者の終の住処として重度化、終末期支援に尽力している。また2ユニット3名の夜勤者、入浴介助は2名体制と最大限の安心安全ときめ細かな処遇を行っている。今年度は様々な外出行事や地域交流が自粛となっているが、例年、地域との積極的な交流により町内会の協力も得られており、夏祭りや生花教室、ラジオ体操、新年会や子供神輿など利用者が参加する楽しみごとが多彩である。昨今の状況により職員は事業所内でのレク活動の更なる充実にも努め、脳トレや言葉遊び、歌唱や塗り絵、各種体操などアイデア豊富にアプローチを行い認知機能の低下予防に取り組んでいる。入居後、時間が意識できるようになったり、自分の役割ができ生き生きとした表情になった利用者、ポータブルトイレから通常のトイレで排泄が可能になるなど介護計画においての実践力も高く評価でき、家族からの労いや感謝の声が多く寄せられている。職員は利用者の目線で考え対応することが大切であり、1人ひとりの考え方を大事にしたいと述べている。尊厳を保障し理念が全体のものとなっている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、スタッフ全員で理念を唱和することによって個人の理解を深め、意識を高めて、その現実を共有し業務に反映できるよう努めています。	法人運営理念を根幹とする事業所独自の理念を標榜している。要所への掲示や理念の唱和、また朝の申し送り時に支援の振り返りを行い確認している。ユニットごとの年度目標や職員個々に目標を立てるなどして全体としての意識化を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	はまなすの家は町内会に加入し、活動に参加しています。(夏祭り、公園清掃、ラジオ体操、フラワー教室等)3月からコロナウイルス発生により一斉中止しています。	今年度は自粛や中止となっているが、例年、自己評価にある町内会の行事に積極的に参加し、また新年会や盆踊り、子供神輿などでも交流し、利用者の豊かな生活への基盤を地域とともに作り上げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便り(はまなすだより)や避難訓練時、利用者の方と触れ合ってもらい、理解の機会を広げています。 避難訓練はコロナウイルス対策にて中止。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回開かれる運営推進会議では、利用者様の状況やプランを報告し、ご質問・意見を頂き反映させています。身体拘束は年6回の内2回発表、報告しています。今年度はコロナ対策のため中止しています。9月1回臨時に行いました	今年度の開催は感染症予防対策上、1回の臨時開催となっている。通常開催時は報告事項・協議事項を始め、ミニ学習会や身体拘束適正化の実施状況の報告なども行っている。会議案内・議事録を家族、メンバーへ送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月1回入居状況を豊平区にFAXしています。区役所、地域包括支援センターと連携をとっています。運営推進会議に出席し意見報告をいただいています。	市への運営に係る報告等は管理者が担い、介護保険に係る案件は介護支援専門員が担当しており、行政担当部署と連携しつつ協働関係を築いている。地域包括支援センターより行事や除雪等の地域環境についての情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回高齢者虐待防止推進研修会に出席し、発表し話し合いを行い確認し合っています。(実践に取り組んでいます) 身体拘束委員会を設置しています。	身体拘束等の廃止に関する指針を定め、3か月に1度身体拘束廃止委員会を開催すると共に、適正化に係る状況を運営推進会議にて報告している。年2回、これらに係る内部研修を実施している。委員会議事録が整備されており、事例に基づいた詳細な内容で協議、検討がなされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待委員会を設置し、研修計画に組み学習しています。又、お互いにアンテナを張り注意して見過ごされない様、朝のミーティングに話し合っています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての学習をし、ご家族が制度を利用しようとするときは手続きの支援をしていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い、不安や疑問に答えて、ご理解納得をしていただけるようにしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者、家族の意見を聞き検討し、運営に反映できるよう努力しています。	利用者からの要望等については具体的に介護計画へ反映させたり、家族や主治医と連携しつつ対応している。今年度は面会も玄関での窓越しとなっており、家族と接する機会が困難であるが、電話等により利用者の報告を行い意見や要望を聞き取るようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議(今年3月コロナ問題にて中止)や毎日のカンファレンス時に意見交換をして運営に反映させています。	年1回管理者が職員との個人面談を実施し、キャリアアップへの支援や困っている事、目標の達成度等を確認している。感染防止・食事・身体拘束廃止等々の委員会に職員が所属し業務を分掌している。毎朝のカンファレンス内で意見交換や調整を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者・職員とコミュニケーションを図り面接、面談により状況を把握しています。その人にあう事業所内の転勤も考えて実行されています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者・職員の介護チェック表をもとに能力を評価し、資質向上のため研修受講の援助を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は日本認知症グループホーム協会の理事をしています。全国大会への参加、発表、研修にてサービスの質向上に取り組んでいます(今年はコロナ対策にて中止でした)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に面会に行き、家族の方もホーム内を見学され、連携を取り安心して信頼関係を築くよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族の思いをお聞きし、一つ一つに対しお答えしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関係機関からの情報をもとに、今必要とする支援をしっかりと把握し、提供できるようにすすめています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者が人生の大先輩である事をしっかりと認識し、家族の一員として暮らしていけるよう援助しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族との情報を共有し、本人との関係を重視し共に支えあう事をめざしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍の為、連絡、情報は電話にてとりあっています。面会は玄関、ホール側とドア越しでマスクをかけています。7月の床屋はベランダ解放、換気に気を付けています。	今年度の家族との面会等は自己評価にある実施状況である。通常期では、家族と一緒に墓参や法事、外食や買い物に出かけ、利用者の知人が毎月訪問するなどの機会や「ほっとカフェみその」へ出かけ馴染みの方々や場との交流がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係はミーティングで話し合い、席を変えて支援することもあります。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された場合は、家族、行政との連絡を密にしています。その後の対応にも密に関係を保っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で本人の希望や思いをスタッフが日常生活の中で理解し、プランに反映させていきます。	職員は利用者と接する中で何が本人の希望であるかの意向を汲み取り、言葉にできない思いの把握にも努めている。利用者の視点に立ち意見を出し合いながら検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報を家族に書いていただいています。情報を集め、その方との生活をプランに入れていきます。今年はコロナ禍のためドア越しの面会としています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタル、申し送り等を中心に、現状を把握しています。(毎朝Drが来ますので報告し、受診等の指示あります)		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝ケアプランにそった申し送りをしています。問題はカンファレンスし、ケアプランの見直しをしています。	センター方式によるアセスメントや居室担当者による詳細なモニタリング、利用者・家族の意向、医療関係者の指示等はもとより、毎朝カンファレンスを実施し支援を検討するなどして、現状に即した介護計画の作成や見直しにチーム全体で取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノート、ケアプラン個人表を活用し、情報の共有を申し送りに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズの高くなってきた利用者様には、家族の意向を踏まえた対応をしています。受診の付添、援助、連携を密に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との交流を生活の一部とし、豊かな生活環境の実施に取り組んでいます。新年会、盆踊り、子供みこし(今年はコロナ化で中止)		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、歯科は訪問診療を受けています。他の専門医療は訪問医の指示があります。	月2回主治医による訪問診療、月1回の歯科医の訪問診療や月2回歯科衛生士による口腔ケア指導の体制を整えている。泌尿器科など他科受診の際は事業所に対応している。医療記録は「受診状況・家族への連絡」シートに個別に記録している。	

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師資格者は1F・2Fで6名在籍しています。細やかな観察をし、訪問医に連絡報告し受診に付添をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護添書により情報提供し、治療の経過、面談にも参加し、家族との連携を密に保っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時に事業所としてできることを明確にし、家族の意向を尊重しながら方向性を探っていきます。家族の揺れに寄り添いながら医療機関や行政と共に支援していきます。	契約時に「重度化した場合における指針」を説明している。終末期支援にあつては「看取り介護に関する指針」に基づき新たに家族と合意形成を図っている。家族の思いに寄り添い、医療関係者等と連携を図りながら多数のターミナルケアに尽力している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルの学習をし、看護スタッフの指導を受け、実践力を養っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っています。町内会の方の参加、協力があります。非常通報装置は町内会の方、職員に通報があります。1F通路、2Fダッシュ11月2日14:00～豊園小学校迄車椅子にての避難経路訓練を行っています。	今年度は5月・11月に日中想定での避難訓練を実施し、収容避難場所への避難経路訓練を行った。危険箇所のチェックや災害時における利用者の居場所(浴室・トイレ等)を想定した対応マニュアルの整備に至っている。災害備蓄品を確保している。	災害時に職員のよりスムーズな参集を鑑み、連絡方法等の体制を見直し整備する考えを示している。なのでその取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りはフロアで行い、個人名でなく何号室としています。誘導や入浴も小声でプライバシーに配慮しています。	個人記録は事務室の棚に収納し人目につかないよう保管している。職員は利用者へ優しく呼びかけ、尊厳を重視した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重し、飲み物(コーヒー・タイム10:15)好きな飲み物にしています。レクの時はパズル、ぬり絵、カルタ、トランプ、自分で参加を決めていただく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調を配慮し、散歩。お昼寝、入床。レクの参加は本人との話し合い、バイタルを参考にしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の持参の服の中から、その日の天候、温度を観察した中から選んでいます。髪の長い方は結んでいます。入浴後爪切をしています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のメニューをスタッフと一部の利用者さんが食事の前に読み上げます。食事前のテーブル拭きをしていただく。デイケアの方は茶碗吹きをしています。社長がとうきびを差し入れた時は皮むきをしています。	献立は事前に決まっているが、季節行事や敬老会、誕生日などは特別食を用意したりケーキなどで普段と違う楽しみがある。畑のトマトやネギなどの野菜を収穫し食材とすることもあり、新鮮な旬の食材を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態は普通食、刻み食、ムース食としています。体調に合わせて栄養剤食品(ラコール、エンシュア)を臨時飲用しています。1日の水分量は1400~1500mlの記録を入れていきます。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、歯ブラシ、スポンジ使用の出来る方は自分でを行い、出来ない方はスタッフが訪問医、衛生師の指示を受けています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、時間誘導、トイレでの排泄の支援をしています。日中の排泄は全員トイレ排泄をしています。	全員の生活記録に排泄の時間や状況を記入しており、利用者ごとの個別のタイミングを見逃さないようにトイレに誘導し、排泄を促している。ポータブルトイレを利用して利用した利用者も適切な誘導によりトイレで排泄ができるよう移行している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、毎日の排便をチェックし、便秘時に対しては、腹部マッサージ、肛門マッサージを施行、緩下剤を使用、対応しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタルチェックを行っています。入浴剤を変えて気分転換をしています(夏はミント系使用)	入浴管理表を確認しながら利用者に声をかけ、一人週に2度の入浴と土日は足浴をしている。入浴は職員が2名体制で身体状況の確認や爪切りのタイミングを見逃さないようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の睡眠パターンを把握しベットへ誘導しています。午睡は毎日13時~14時半迄取っていただいています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は個人ファイルに入れてあり、即、確認できるようにしています。薬が変わったときは申し送りノート、朝のミーティングで報告しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今年はコロナ禍のため、散歩に出ることが少なかったです。おやつは個々の好物を提供しています。			

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年はコロナ禍のため、町内会の行事、お花見、流しソーメン、焼肉パーティは中止しています。他科受診の方は指示に従って行っていました。	感染症予防対策として今までのように頻繁な外出の機会は少なくなったが、近隣への散歩や事業所の畑や花壇に行き屋外に出て外気を感じるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	好きな食べ物は家族が買ってきています。お預かりし、15時のおやつに食べていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	語所の電話は自由に掛けたいとき使用していただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは広々として開放感があり、全居室に面しています。壁紙は季節感を出しています。玄関には庭で咲いた花を飾り、入浴はミントの入浴剤をしようしています。	日中のほとんどの時間は明るく広い居間のソファや椅子に腰かけ、10時のお茶や3時のコーヒータイム以外に体操や塗り絵、パズル、歌会、早口言葉などの脳トレをして過ごしたり、職員と話をしながら過ごしている。清掃の行き届いた共有空間は暖かく居心地のよい安全な場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る席、気の合った入居者同士の工夫をしています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の方と相談し、家具の配置、ベットの位置を工夫しています。	介護ベッド、クローゼット、カーテン、照明器具が備えつけてある部屋に利用者ごと好みのものを持ち込み落ち着いて暮らせる部屋にしている。テレビ、タンス、椅子、仏壇、ラジオ、時計、新聞や本など好きなものに囲まれて安心して暮らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	リビングは障害となるものを少なく、テーブルの間隔は車椅子が通れるよう配慮しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501415		
法人名	有限会社 ケアワークス		
事業所名	グループホーム はまなすの家2F		
所在地	札幌市豊平区美園1条1丁目5番17号		
自己評価作成日	令和2年11月6日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和2年9月より共用型デイサービスを行っています。平成14年開設し、現在の場所に移転し18年が経過しました。
町内会に加入しています。今年はコロナ対策のため、施設内対応となっています。(公園の社会資源の活用等)
施設内はスタッフの4割が看護師です。地域の医療連携を密にし、入居者様、家族、職員の安心・安全につなげています。
毎日申し送りを聞き、プランに基づいたケアを実施しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigovsyoCd=0170501415-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年1月20日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り時に、スタッフ全員で理念を唱和することによって個人の理解を深め、意識を高めて、その現実を共有し業務に反映できるよう努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本年はコロナ禍によって参加が出来ていませんが、町内会に加入し、利用者様と活動に参加しています。(夏祭り、公園掃除、ラジオ体操など)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームからはまなすだよりを年4回発行。18年の間に地域の方々へ行事参加をして頂いたり、避難訓練を通し触れ合いの機会をもっています(防災ズキンは町内の手伝いです)		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で休止もよぎなくされていますが、2ヵ月毎に開かれる運営推進会議では、利用者の現況やプランの内容を報告し、質問や意見を頂きホーム運営に反映させています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様の状況を市に報告する他、区役所、地域包括支援センターと連携を図っています。おむつサービスの利用や生活保護担当者との連絡も行っています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、拘束のないケアを実践しています。推進委員会にも発表を行い、情報を得ています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年行われる虐待研修に職員が必ず参加し、ホーム内の研修計画にも組み込み、全員で学習に取り組んでいます。職員間でも注意と見逃しが無い様になっています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての学習をし、家族からの相談に対応できるよう備えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に2名の職員が同席し十分な説明を行い、不安や疑問に答え、理解を頂けるように努力しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に利用者や家族の意見を聞き、内容を検討し、運営に反映できるように努力しています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のミーティングや毎月の全体会議で意見を聞き、運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者・職員とコミュニケーションを図り面接により常に状況を把握しています。 評価表をもとに個々人の評価をするとともに、向上心を持って働くよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者・職員の介護チェック表をもとに能力を評価し、資質向上のための研修受講の援助をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は他グループホームと交流し、事業内容についてサービスの向上をさせていく取組をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者から情報の収集に努め、ご本人と家族との関わり、信頼関係を構築するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者に生活歴を聞き、困っていること、不安を理解し、信頼できる関係を作るようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかり情報を収集し、今必要としている支援の内容を把握して他のサービスも提供できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者様が人生の大先輩であるという認識のもとに、暮らしを共にする関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の絆を大切に考え、共に支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年はコロナということで、理容も制限はありましたが、1階ベランダ解放し、7月・10月に行いました。又、届け物も玄関で受け取り、お届けしています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を申し送りやカンファレス、連絡ノート等で共有し、支援にてつなげています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、ご家族様との連絡、報告はしっかり行っています。退去後も、ご家族様の方が来られています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で本人の思いをくみ、プランに反映させています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族の方から情報を聞いて、職員同士話し合いを通じて共有しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を把握して、観察項目を判りやすくすることにより、記録しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎朝、ケアプランに基づいて話し合い、必要な時にはプランの見直しをしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の内容はプランに沿ったケアが実践されているか見直しをしています。また、連絡ノートを活用し、変化に早く対応しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療ニーズの高くなってきた利用者の方にはご家族の意向を踏まえた対応をし、医療連携を密にしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年はコロナ禍にて制限がありますが、町内会との交流は継続しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を中心に、専門医の受診も支援し、適切な医療を受けられるようにしています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は事業所の職員です。1、2階で7名在籍しており、細やかな診察的確な判断をし、受診、看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護からの情報を提供することにより、病院関係者と関係作りを行っております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事業所として出来ることを明確にし、家族の意向を尊重しながら方向性を保っていきます。家族に寄り添い、医療機関や行政と共にチーム支援に取り組んでいきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護スタッフより、緊急時対応マニュアルを基に指導を受け実践力を養っております		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎日、消防計画として、建物内のチェックをしています。年2階、避難訓練も実施。11月2日14:00～豊園小学校迄車椅子介助にて避難経路訓練を行っています。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の申し送りはフロアで行っていますが、個人名は出さないようにしています。トイレや入浴の誘導もプライバシーに配慮し、人格を尊重しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重し、飲み物やご本人の希望を伺い、一人一人の趣味の時間も大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今年はコロナ禍で外部へ出る機会がなくなっていますが、毎日ひとりひとりのペースで過ごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面所の鏡を利用し、身だしなみを整えるよう声かけ、支援しています。		

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1日の献立をボードに書き、会話のきっかけにしています。 行事食はコロナ禍にて感染対策をして(マスク、手袋)一緒に作っています。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態は、刻み食、ムース食など利用者の状態に合わせて提供させていただいています。一人一人の状態に合わせた水分量も決定し、摂取量を記録。体調の変化が見られた場合は、速やかに対応しています。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがき、義歯洗浄を声かけして頂き、自力で出来ない部分は支援しています。 施設では、毎月訪問歯科治療、ケアを行っています。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、極力トイレでの排泄を支援しています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、水分摂取量と排泄の状態を記録し、看護師の指導のもと、便秘にならない様支援しています。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回入浴できるよう準備をしています。 時間は、その日のご本人の体調に合わせて、リラックスできる入浴を心がけています。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午前中は活動時間としていますが、昼食後、昼寝の時間をとっていただいています。(1時間半程度)			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報はファイルに入れてあり、すぐに確認できるようになっています。食前食後薬をお一人ずつ渡す際は2人の職員で確認し、お渡しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事前のテーブルを一緒に拭いて頂いたり、洗濯物を干す、たたむなども一緒に行っています。			

グループホーム はまなすの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本年はコロナ禍で各行事の中止や、感染防止のため、外出は受診等制限をしています。町内行事、お花見、流しソーメン、焼肉は中止しています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本年は同行での買い物はせず、代行で職員が行うか、ご家族にお願い、依頼しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が携帯電話を持つことはできませんが、ホールの電話は使っていただいています。手紙のやり取りは行っています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としています。壁面には季節を感じる事が出来る飾りで、穏やかな雰囲気心を心がけています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、椅子、ソファの配置は気の合った雰囲気よく過ごせるよう工夫しています。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋は使い慣れた物を活かして、居心地良く過ごせることを第一に、出入り等の際転倒のない様注意しています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は、リビングに面して、安全に配慮しています。車椅子の移動にも支障のない広さを確保しています。			

目標達成計画

事業所名 グループホームはまなすの家

作成日：令和 3年 2月 6日

市町村受理日：令和 3年 2月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	今年度はコロナ禍の為、十分に訓練を行うことが出来なかった。過去の訓練等の記録が不十分だった。	年に数回程避難訓練を行う。災害時避難対策マニュアルの見直し、備蓄品等のチェック、定期的な学習会の実施。	①消防署との連携を図り、避難訓練を行う。②災害時避難対策マニュアルを見直し、作成し、従業員全員で把握、その都度話し合い、学習会等開く。	1年
2	37	日々のレクリエーションがワンパターンな為入居者の活気が少ない事がある。活気を引き出し、積極的に進んで参加できるような支援、レクを提供する必要がある。	本人の意思を尊重し、レク等は自己決定出来るよう生活環境の提供。	①座りながらも、出来るような、レクリエーションを提供。②積極的に進んで参加したいと思えるような声かけを行う。	3か月
3	38	今年度は、コロナ禍の為、外出がほとんどできなく、入居者にストレスが見られることがある。	ストレス発散できるような環境の提供、レクリエーションの参加、季節を感じられるような、生活環境の提供。	①天気の良い日には、入居者の体調を配慮し外気浴、公園等の散歩を行う。	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。